

2019 年時点、まだ健在な深山の女王

白馬尻のシラネアオイ巨大株 (長野県北安曇郡白馬村)

シラネアオイは高山植物の図鑑等に掲載されている花で、私の古郷の山である白山山系にはなかった。図鑑で見る淡いピンクの大きな花は、憧れの花の一つでもあった。インターネットの無い時代、花情報は限られ、立山の一の谷に咲くという情報を聞いた。早速7月に出かけたが、一株だけ、それも個性的な果実になっていた。意外に早く咲くようだ。次に白馬大雪溪の白馬尻に咲くという情報を得て、1999年の6月中旬に向かった。これは写真全集第一巻「花の山岳写真」、表紙写真で発表した。この時はフィルム時代、45の大形カメラで、何とかものにした。デジタルカメラの時代になって、もう一度白馬尻のシラネアオイを撮影したいと思い立ち、20年ぶりに向かったのである。

この頃、伊吹山は温暖化の影響で、鹿による食害で山頂のお花畑は壊滅、中央アルプス等でも同様の被害が及んでいた。白馬尻の植物たちは大丈夫だろうか。心配しながら林道を登ると、以前見たサンカヨウやキ

ヌガサソウが健在であった。ところが、白馬尻周辺では、以前見た地形が大きく変化していて、例のシラネアオイが見つからない。少々焦りながら、白馬尻の雪溪脇を彷徨ううちに、とうとう見事なシラネアオイに出会う事になったのである。

高山の女王はコマクサならば、深山の女王はシラネアオイであろうか。シラネアオイは白根葵で、日光白根山に多く、室町時代に中国から渡来したタチアオイの花に似ている事による。6月中旬、大雪溪の尻は、白馬尻の下部300mまで延びている。融けた辺りからシラネアオイの花が咲き出している。白馬尻上部では、雪溪の周辺の融けた斜面に見られる。シラネアオイは崩れそうな斜面で大きな株を作る性質があり、雪溪周辺の斜面は、彼女にとっては最高の舞台なのである。

日本海側の高山地帯は、まだ鹿の食害が及んでいないが、猪の例を考えると、これも時間の問題のような予感がする。



写真全集第一巻「花の山岳写真」より、シラネアオイと大雪溪。
左上は杓子岳。



シラネアオイの個性的な果実

